

2023年4月12日

## 2022年度「多摩地域市民活動公募助成」事業実施報告書

団体名 南大沢4丁目15番地自治会

代表者・役職名 氏名 柳澤重男・会長

### ▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

### 1. 助成プロジェクト名

シルバー食堂(高齢者食堂)

### 2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

団地の一般的な自治会として誕生したものでしたが、住民の高齢化が急速に進み、活動も極度に衰えてきたため、4年前に住民有志で高齢者のためのシルバークラブ等を立ち上げ、今ではレクリエーション・文化活動を年間約250日行っています。2年前からは子ども食堂を開始し、他団地の住民も加わり、また高齢者もボランティアとして積極的に参加しています。

### 3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

団塊の世代が多く居住する当団地は、超高齢化に直面しており、独居老人の増加が深刻化しています。子ども食堂を始めて痛感したことが、高齢者も同じような集いの場を求めているということでしたが、子ども食堂と違い助成のシステムがほとんど整っておらず、自己資金で運営しなければなりません。2021年秋、当自治会独自で全世帯にアンケートを実施した結果、46世帯からの回答があり、「高齢者向け食堂が必要(76%)で、できたら参加したい(46%)」という結果が得られたことが、今プロジェクトの最大の動機と言えます。

### 4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

15名程度の高齢者が月に2回食事することを想定し、住民の中からレストラン経営・調理経験者(高齢者)を中心に3~4名程度で手作りメニューを提供していきたい。ただし、その体力には心配があるために、毎回2名程度の有償ボランティア(すでに人選は完了済)でこれを補っていきたい。提供する料理の原材料費は約600円/人とし、参加する高齢者から200円/人を頂戴する。コロナの状況にもよるが、できるだけ皆でテーブルを囲んで一緒に食事できる環境づくりを目指す。可能であれば、すでに2021年から開始している子ども食堂との同時開催とし、コスト軽減に努めるほか、世代間の交流を図っていくものとする。

### 5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

当初、会食形式の手作り昼食会を予定していましたが、新型コロナの影響により開始が秋口まで延び、またボランティア人員が思うように確保できないということもあり、途中からは弁当などを配布するという形式を取らざるを得ませんでした。現在は目標の30名を達成し、さらに参加を希望する高齢者が少なくありませんが、予算や人手の関係でお待ちいただいています。食事のほかに、八王子市から提供を受けた賞味期限ギリギリの災害備蓄品も同時配布しており、参加者から驚くほど感謝され、「これで食事代がおおいに浮いて助かっている」などという言葉を目にするたびに、貧困の実情も想像以上のものであったと再認識させられています。

## 6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

今後も参加希望者が増加することが予想され、それに伴う資金源や配布物資、それにマンパワーの確保が最大の問題となってくることが確実です。資金の調達については、今後とも引き続き真如苑の協力をお願いするとともに、自治体からの公的支援も絶対不可欠です。マンパワーについては、最寄りの大学のボランティア・プログラムを利用したり、サークルへ呼び掛けていく計画です。

さらに、1か所の「食堂」で受け入れられる人数には限界があるので、さらなる「食堂」の増設が必須です。今後立ち上がってくる同種のボランティア団体への協力は惜しまずにおこなっていくとともに、様々な方法で世論に呼び掛けていきます。

## 7. 参考資料: プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、“必ず”、別途、ご提供ください。

